

## ホッコクアカエビ *Pandalus eous*

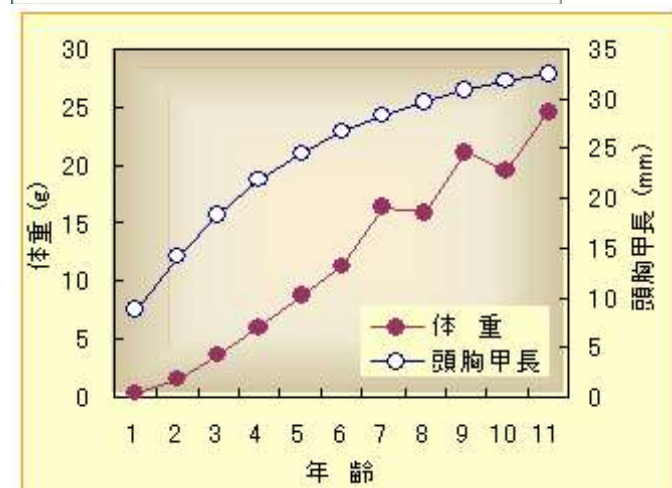
日本海系群

担当：日本海区水産研究所



### 生物学的特性

- 寿命： 11年
- 成熟開始年齢： 雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳  
産卵期は2-4月で隔年産卵  
成長にともなって400～600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う
- 産卵期・産卵場： 産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200～300mで幼生の孵出を行う
- 索餌期・索餌場： 主分布域と同海域
- 食性： 微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトライタス等を餌とする
- 捕食者： マダラ、スケトウダラ等の底魚類により捕食される





本州沿岸における漁獲量と資源量指数

## 漁業の特徴

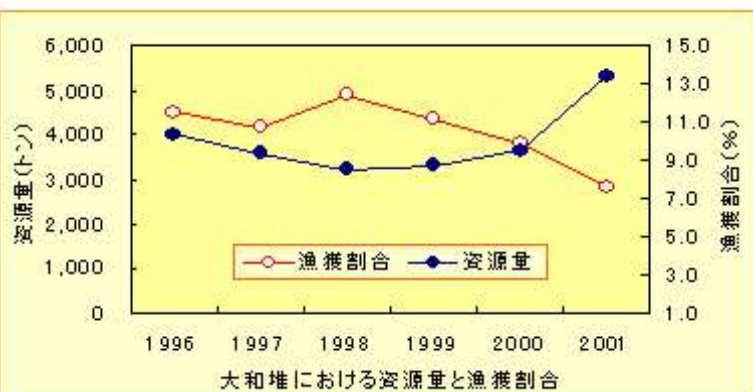
鳥取県から北海道沿岸にかけての水深200～950mの深海底に生息し、分布の中心は200～550mにある。沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業、かご網漁業によって漁獲が行われている。

## 漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,118トンピークに減少傾向にあったが、1995年以降は2,000～2,200トン台で推移し、2001年も約2,100トンとほぼ横ばいで推移している。漁場の中心は水深500mにあって、とくに能登～若狭湾を中心とする日本海中部海域と、隠岐堆、新隠岐堆を含む山陰沖及び大和堆が主要な漁場となっている。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟、福井と続いている。



大和堆における漁獲量と資源量指数



大和堆における資源量と漁獲割合

## 資源評価法

漁獲の50～60%を占める沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書をもとに、海区別の資源量指数及び漁獲量の推移を基礎とした。また、能登半島以西の本州沿岸及び大和堆については、調査船による採集結果をもとに資源量を試算し、その動向を調べた。

## 資源状態

漁獲量はほぼ横ばいながら、近年依存度が低下している沖合区を除いて、資源量指数がほぼ横ばい傾向で、本種資源は比較的良好な状態で安定していると判断される。また、能登半島以西の本州沿岸の資源量は約1,400トンでほぼ横ばい、大和堆の資源量は約5,400トンで前年に比べて増加していると推定された。



## 管理方策

近年の漁獲量が横ばい、かつ、主要な漁業種類である沖合底びき網漁業の資源量指数もほぼ横ばい傾向にあること、資源量推定結果が横ばい（本州能登半島以西）または増加（大和堆）であることから、現状の資源水準を維持することを管理目標とした。平均漁獲量および安全率0.8を考慮してABCを算定した

|              | 管理基準          | A B C (トン) | 漁獲割合 | F 値 |
|--------------|---------------|------------|------|-----|
| A B C limit  | Cave5-yr      | 2,200      | -    | -   |
| A B C target | 0.8 ABC limit | 1,700      | -    | -   |

## 資源評価のまとめ

- 主要な漁場である本州沿岸において、1995年以降資源量指数がほぼ横ばい傾向にあり、資源状態は中位水準横ばいで比較的安定して推移している
- 資源量推定結果も横ばいもしくは増加傾向で、資源の状態は良好といえる

## 管理方策のまとめ

- 現在のところ、主要な本州沿岸の漁場で良好な資源状態を保っている
- 管理目標は、現在の資源状態を維持すること